

平成28年7月8日

呉竹医療専門学校
校長 細野 昇 殿

学校関係者評価委員会
委員長 河原 保裕

学校関係者評価委員会報告

平成28年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 刑部 正道 (在校生保護者)
- ② 福島 聡一郎 (同窓会組織呉竹会会長・第2期卒業生)
- ③ 河原 保裕 (公益社団法人埼玉県鍼灸師会会長)
- ④ 長嶺 芳文 (公益社団法人埼玉県鍼灸マッサージ師会副会長)
- ⑤ 高橋 知則 (公益社団法人埼玉県柔道整復師会常務理事)
- ⑥ 竹内 正 (埼玉県立松山女子高等学校教諭)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

第1回委員会 平成28年7月2日 (会場 呉竹医療専門学校 10階 1001教室)

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

I 重点目標について

1 重点目標について

次の重点目標は、達成計画や取組方法が具体的に示されており適切に設置されている。

- ①事業計画の具体化
- ②運営方法等に関する規則の設置
- ③記録と保管の徹底

この目標を達成することにより、事業評価や改善目標を明確に定められるようになり、PDCAサイクルによる業務改善が確実に進むことを期待する。

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・人材育成像

教育理念、教育目標、育成人材像等が明文化され、教職員をはじめ学生、保護者及び関係者に周知を図る努力をしている。また、関連業界が求める知識・技術等については、育成人材像や教育方針に示されており、社会のニーズに適合していると考えられる。中期目標や事業計画との予算を関連づけて示すことや、理念等の浸透度を在校生に確認することにより、教育効果の高い事業を展開されることを期待する。

2 学校運営

学校運営は、理念等に沿った運営方針の則り、事業計画を作成して行っている。理事会での決定事項は、段階的に伝えられ教職員全体に周知を図っている。学生情報管理は適切に行われており、学生指導に役立てられている。

人事・給与・昇任・人事考課の規程の見直し・整備については、解決に向けた着実な取組に期待する。

3 教育活動

教育課程は教育課程編成委員会等の意見を反映させながら編成しており、成績評価基準、取得資格、指導体制等の体制は十分に整えられている。研修や研究発表は、年次計画に沿って行われており、教職員の質を高める体制を整えている。

教員に関する情報公開や採用に関する諸規程の整備を課題としており、着実な改善に向けた取組に期待する。

4 学修成果

就職を希望する学生の自覚を促し、自主的に就職活動を支援する工夫を行っている。目標達成に向けて着実に努力している。国家資格の取得状況は、高い水準を維持しているが、学生の質の変化に適した指導方法を展開される努力を続けられることを望む。

また、卒業生の社会的評価の把握について課題としており、改善に向けた取組に期待する。

5 学生支援

中途退学者を低減させるため、努力されていることを確認した。徐々に効果が表れているようなので、学生相談の在り方などを見直しながら着実に中途退学者を低減させることを期待する。

産学連携による卒業生の再教育プログラムについては、具体的な対応策を講じて改善されることを期待する。

6 教育環境

施設・設備、学校行事等の教育環境は、充実している。インターシップについては、受入先企業等との連絡協議体制の構築を課題とされており、改善への取組に期待する。

安全管理体制については、ロッカーの固定化などの取組を上げており、予算化され次第、着実に実行されることを望む。

7 学生の募集と受入れ

学生募集活動、入学選考、学納金の設定及び入学辞退者の対応については適切に対応している。これらの情報は、募集要項やホームページにおいて、公開されている。

入学者の状況を把握し、授業内容を一部変更する対応も行われており、引き続き良好な状況を維持されることを望む。

8 財 務

法人の財務状況は安定していることを確認した。中期目標や単年度事業計画に関連した予算を配置することによって、引き続き良好な状況を維持されることを望む。

9 法令等の遵守

自己評価の重点目標を絞って、着実に取り組まれることを支持する。重点目標には、事業計画や規程等の設置が中心となっているので、周知を徹底して着実に進められることを期待する。

10 社会貢献・地域貢献

社会問題への対応、国際交流、ボランティア活動等の課題については、規程を設置するなどの課題を上げている。社会問題への対応や国際交流等、法人全体での取組が必要となる事項もあるので、着実に改善を図れるように十分に検討されることを望む。